

いよいよ楽しい冬休みです。きまりを守り、あいさつ・手伝い・読書をがんばりましょう！

第47回「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクールにて さんが文部科学大臣賞を受賞し、先日学校で表彰式をおこないました。おめでとうございます。心が温まる作品を紹介します。

思い出のおへそ

下松小学校

わたしには、おへそがあります。ばしよは、おなかのまんなかです。かぞくみんな同じところにおへそがついています。

前に、お母さんに、わたしの「へそのお」を見せてもらいました。小さな木のはこに入っていて、ちやいろくて、ひからびていて、「するめみたいだな」と思いました。つぎに、生まれたばかりのおとうとのしゃしんを見ました。わたしのむかしのへそのおよりも、ふとくて、クリーム色でぶよぶよしたかんじが「きもちわるいなあ」と思いました。そして、なんでへそのおをのこしておくのか、おへそってなんのためにあるのか、気になりました。

この本は、おへそについて書いています。おへそは、生き物みんなについているわけではありません。本には、ニワトリ、金魚、カメのおへそがないことが書いてあります。この生き物たちは、たまごを生みます。たまごからえいようをもらって、生まれてきます。ちようど家に、ことしのおまつりで、すくってきた金魚がいたので、かんさつしてみました。おしりから長いふんを出しているだけで、たしかに、おへそは見あたりませんでした。たまごに、赤ちゃんが大きくそだつて、生まれてくるためのえいようが入っているなんて、すごいな、と思いました。

人間は、たまごを生みません。本にお母さんと、おなかの赤ちゃんの絵が書いてありました。わたしは、それを見て「たまごみたいだなあ」と思いました。そのたまごの中で、お母さんとながっていて、お母さんが食べた物が赤ちゃんのえいようになっています。「きもちわるいなあ」と思っていたへそのおは、とても大切なものだったのです。だから、わたしやおとうとが生まれたときに、お母さんとながっていたしるしに、へそのおをのこしておいたのかなあ、と思いました。

本のさいごには、「あなたのおへそをいじったりひやしたりしないようにだいにしましよね」と書いてあります。わたしは、おへそは、生まれる前からの思い出だと思うから、大切にしようと思いました。



読書は、豊かな心を育みます



12月6日(水)は、22名の読み聞かせボランティアに参加いただき、楽しい時間を過ごしました。

保護者の皆様、子どもの学びへのご協力に感謝申し上げます。来年も皆様にとってよい年となりますに！